Salmonella Infantisが32株（全てブロイラー由来）で、約半数を占めていた。

分離された64株の薬剤感受性試験成績を表1に示した。供試した15薬剤のうち９薬剤（ABPC、CEZ、CTF、DSM、KM、OTC、BCM、NA及びTMP）に耐性が認められ、その耐性率は3.1～82.8%であった。同一個体から分離された*S.* Infantis（２株）が、セフェム系薬剤（CEZ及びCTF）に対して耐性を示した。フルオロキノロン剤（ERFX）に対しては全て感受性を示した。

(2) カンピロバクター

カンピロバクターは、供試された304検体中51検体（16.8%）から83株（肥育牛由来４株、肥育豚由来28株、採卵鶏由来24株及びブロイラー由来27株）が分離された。菌種の内訳は、*Campylobacter jejuni* 40株及び*C. coli* 43株であった。肥育牛、採卵鶏及びブロイラーからは主に*C. jejuni*が、肥育豚からは*C. coli*が分離された。

分離された83株の薬剤感受性について、表２に示した。供試した９薬剤のうち７薬剤（ABPC、DSM、EM、OTC、CP、NA及びERFX）に対する耐性株が認められ、それらの耐性率は7.2～60.2%であった。菌種別の耐性率は、EMでは*C. jejuni* 0%及び*C. coli* 34.9%であった。ERFXでは*C. jejuni* 42.5%及び*C. coli* 30.2%であった。*C. jejuni*においてERFXに対する耐性率が昨年に比べて上昇しているが、調査株数が例年より少ないことが影響している可能性が考えられた。

表２　カンピロバクターの薬剤感受性試験（平成18年度）

薬剤	Range (μg/ml)	MIC 50 (μg/ml)	MIC 90 (μg/ml)	ﾌﾞﾚｰｸﾎﾟｲﾝﾄ (μg/ml)	耐性株数	耐性率 (%)
ABPC	≦0.125-64	4	16	32	6	7.2
DSM	0.5->512	1	>512	32	30	36.1
GM	0.25- 4	0.5	4			
OTC	≦0.125->512	32	256	16	50	60.2
CP	0.25-64	4	32	16	14	16.9
EM	0.25->512	2	>512	32	15	18.1
NA	2-256	8	256	32	29	34.9
ERFX	≦0.125-8	≦0.125	4	2	30	36.1
SDMX	16->512	128	>512			

（注）EM:エリスロマイシン

(3) 腸球菌

腸球菌は、一般腸球菌（*Enterococcus spp.*）の選択培地による分離では、供試された272検体中235検体（86.4%）から421株（肥育牛由来108株、肥育豚由来103株、採卵鶏由来119株及びブロイラー由来91株）が分離された。一方、バンコマイシン（VCM）添加培地を用いた選択分離においては、336検体中１検体（0.3%）から２株が分離された。

分離された一般腸球菌421株の薬剤感受性試験成績を表３に示した。調査薬剤のうち10薬剤（DSM、GM、KM、OTC、EM、LCM、ERFX、CP、AVM及びVCM）に対して耐性株が存在し、その耐性率は一般腸球菌で1.4～54.6%であった。このうち89株（肥育牛由来23株、肥育豚由来21株、採卵鶏由来19株及びブロイラー由来26株）が*E. faecium*として分離されたが、VGMに対する低感受性株は存在しなかった。また、一般腸球菌の選択培地で分離された菌のうち、採卵鶏から分離された4株がVCMに対するMIC値が≧32μg/mlであり耐性を示した。この４株について、菌種及びVCM耐性遺伝子を確認したところ、２株が*E. faecalis*で他の2株が*E. gallinarum*であり、いずれも高度耐性を示す遺伝子（*van*A及び*van*B）を保有しておらず、自然耐性菌であった。

一方、VCM添加選択培地でブロイラーから分離された２株は、VCMに対するMIC値が≧64μg/mlであり耐性を示した。これらのVCM耐性遺伝子及び菌種同定を実施した結果、いずれもVCM耐性遺伝子（*van*A）を保有する*E. durans*であり、VCM高度耐性のVREであった。

表３　一般腸球菌の薬剤感受性試験

薬剤	Range (μg/ml)	MIC50 (μg/ml)	MIC90 (μg/ml)	ﾌﾞﾚｰｸﾎﾟｲﾝﾄ (μg/ml)	耐性菌株数	耐性率 (%)
ABPC	≦0.125-8	0.5	2	16*	0	0.0
DSM	4-≧512	32	≧512	128	84	19.9
GM	1-64	8	32	32	47	11.1
KM	1-≧512	32	≧512	128	102	24.1
OTC	≦0.125-≧512	16	256	16*	231	54.6
CP	1-128	8	16	32*	26	6.1
BC	1-≧512	64	≧512	—	—	—
EM	≦0.125-≧512	0.5	≧512	8*	75	17.7
LCM	≦0.125-≧512	16	≧512	128	88	20.8
ERFX	≦0.125-32	1	2	4	21	5.0
AVM	0.5-≧128	2	8	16	37	8.7
SNM	≦01.25-32	1	2	—	—	—
VCM	0.25-≧32	1	2	32*	4	1.4
VGM	≦0.125-64	1	4	—	—	—
	(0.25-64)	(1)	(8)	—	—	—
NHT	≦0.00099-≧32	0.0156	0.0195	—	—	—

（注）LCM：リンコマイシン、SNM：サリノマイシン、BC：バシトラシン、VGM：バージニアマイシン、VCM：バンコマイシン、AVM：アビラマイシン、NHT：ノシヘプタイド
VGM欄の（　）内の数値は、*E.faecium*のみを抽出して集計した場合の数値
＊: CLSIに規定されたブレークポイント

(4) 大腸菌

大腸菌は、供試された291検体中273検体（93.8%）から、500株（肥育牛由来149株、肥育豚由来126株、採卵鶏由来120株及びブロイラー由来105株）が分離された。

これらの大腸菌500株の薬剤感受性試験成績を表4に示した。供試した15薬剤のうち13薬剤（ABPC、CEZ、CTF、DSM、GM、KM、OTC、BCM、CP、CL、NA、ERFX 及びTMP）に対する耐性株が存在し、それらの